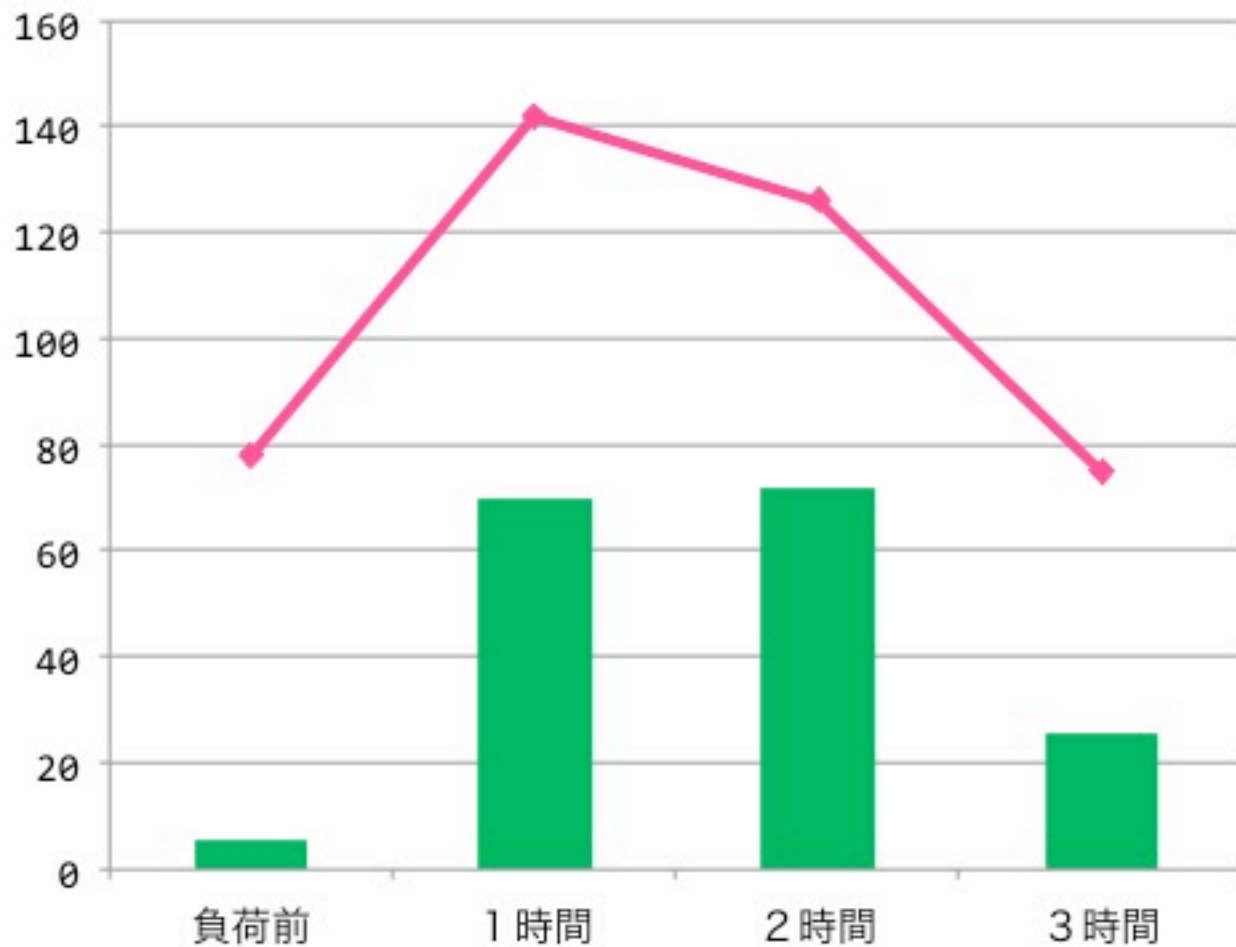
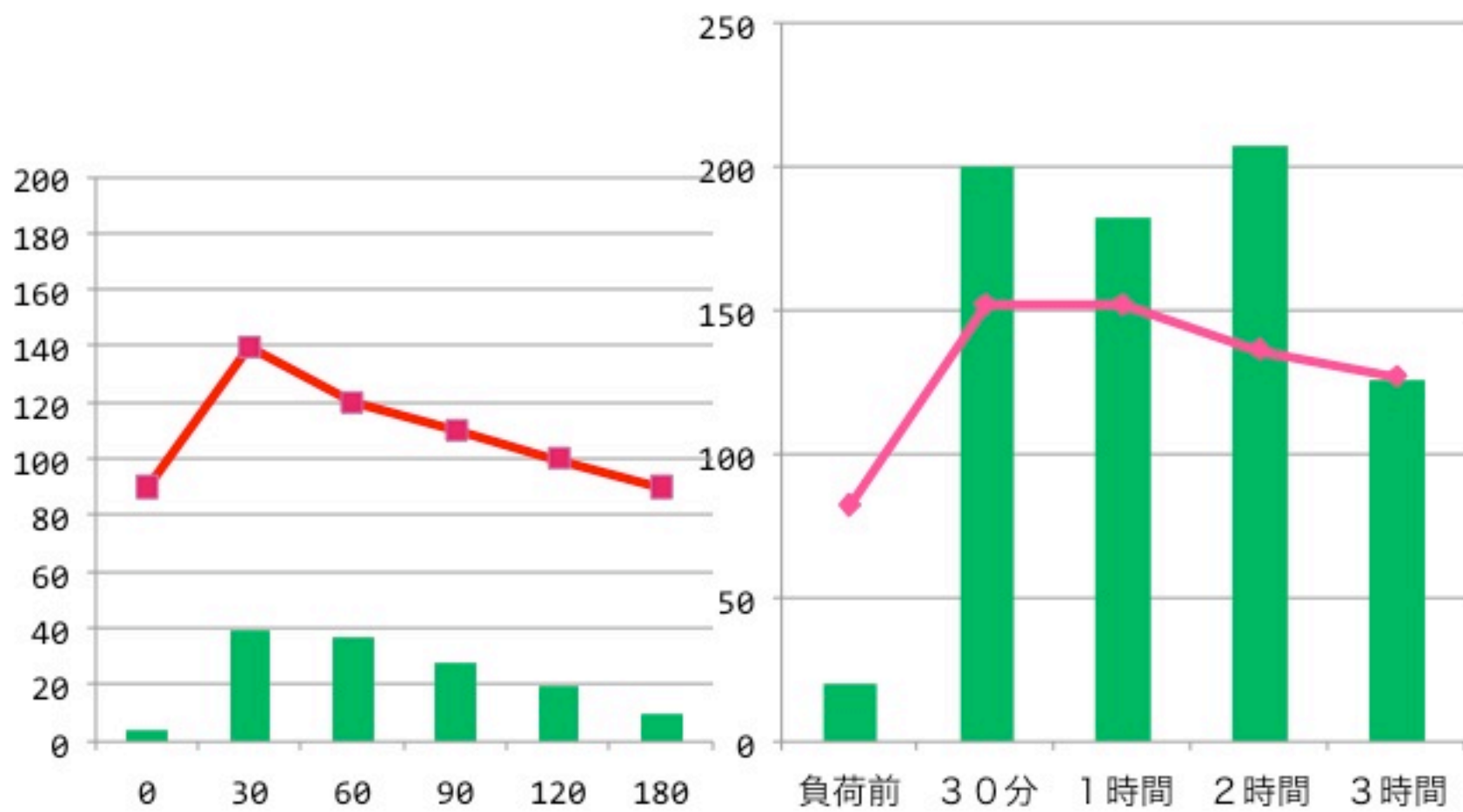


この方は、インスリン遅延分泌パターンです。本来は  
負荷後1時間以内にピークになるものです。



左：正常例、右：インスリン遅延過剰分泌パターン  
(インスリン出過ぎです)



# 機能性食後低血糖症の問題点

- ・ 本当にそのような病気があるのか。
- ・ 実際の症状発現時に低血糖が確認できない。
- ・ 糖負荷試験では正常者にも低血糖がまれならず出現。

## まとめ

- ・ 食後低血糖様症状は、境界型～初期糖尿病においてまれならずみられるものであり、その診断基準を満たすなら、「低血糖症」ではなく、「糖尿病」と診断すればよい。
- ・ 糖尿病ではない食後低血糖を呈する病態も存在するが、糖負荷試験だけでは疑陽性が多い。食事内容の把握が重要である。
- ・ このような病態に対し、一定の糖質制限、蛋白所要量摂取等、食生活の改善が有用であり、向精神薬を減量することが可能である。

# まとめ

・ 食後低血糖症のインスリン分泌パターンも様々である。

- 1) 正常～鋭敏分泌パターン
- 2) 遅延分泌パターン
- 3) 遅延過剰分泌パターン

食後低血糖が疑われた精神科  
診療所通院患者 10 例の検討  
— 75 g ブドウ糖経口負荷試験  
結果を中心に —

木津明彦、小原恵彦、森 一也

最新精神医学

16 卷 3 号 2011 年 5 月号